

# おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー部報第 15 号 (7 月 29 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Y2B東海大山形B戦 予想外の大勝

7 月 27 日 (日) Y2B 第 10 節東海大山形 B 戦が山形明正 G で行われました。山東は前節山形中央 B 戦で新チーム初白星を上げ、意気上がる。ただ、元々の人数が 21 人と選手層が激薄なのと、前々節に引き続き前節でも「負傷退場⇒病院直行⇒完治まで数週 (すなわち翌週の県リーグには出られず)」というパターンで出場可能選手が一人減ったのとで、選手のやりくりは限界。先週まで、「動けるが出場予定ではない選手」が数名おり、応援に回ってもらいましたが、今節は動けるんだったら誰でも良い (失礼!) とばかりに、動ける者全員を選手登録<sup>1</sup>。それでも出場可能選手は 14 名 (ということは 7 名が故障!)。もちろんその 14 人から先発 11 人を除いた交代可能な 3 名のうち 1 名は GK。ということは、FP の交代は 2 名まで。とまあ、**これほどまでにメンバーのやりくりを苦しく思ったのは初めて**です。昨年は怪我が人が少なかったか、今年と同じような選手人数だったにもかかわらず、今年ほど苦しさは感じませんでした。**そこで今野の頭に思い浮かんだのは、「この節だけ 3 年生 2、3 名呼び戻せばいいじゃないか」と「ドーピング」をささやく悪魔の声。**いや、3 年生は協会登録上は山東の選手のままだし (引退など登録上は無関係だし)、山東のリーグ戦における悲願である 1 部復帰のためにはその方が (3 年生にとっても) よいはずだから、何も「悪魔の声」など大げさに言う必要もないのですが、対外的に (この部報等でも) 山東は代替わりしたとアナウンスしているし、何より**これから新チームで戦っていく上で正直に困難に立ち向かった方が長期的には良いはず**。安易に短期的な結果を得ようと「ドーピング」に走った時に、新チームの「健康」が害されるであろう。ここはやせ我慢して、正直に当たろう (3 年生数名の力を借りるのは止そう)。ということで、くだらないことを考えた 1 週間を経て、今節がすぐやってきました。

今節の相手東海大山形 B は、前節同様強豪校の B チーム。昨年、一昨年は Y2 でも優勝争いをしたが<sup>2</sup>、今年はここまで苦しい星。ただ、もちろん新チームの山東が楽に構えることのできる相手ではない。清野 OB 会長、後藤報道局長、そして多数の保護者の応援を受け、Y2B の聖地山形明正 G で 9 : 00 キックオフ。

試合が始まると、東海のパスワークに走らされる。山商戦同様、低い位置のボランチが

<sup>1</sup> 県リーグは毎節 20 人を登録。よって、試合後と違うメンバーで戦うことができます。

<sup>2</sup> 確か一昨年は優勝したような記憶があります。ただ、同一リーグに複数チームは所属できないため (東海 A と同じリーグに所属できないため)、優勝したが昇格できず、Y2 に留まりました。

自由にボールをさばいており、その選手への山東 FW・ボランチによるプレスが甘い。そして、**全体として甘い 1対1 の対応を物語る話ですが、スローインでことごとく自由にボールをさばかせてしまい、せっかくのボールの奪いどころすら厳しく迫れない。**そのことと関係して、**いまいまボールが渡る段でも平気でマークを受け渡している。**マークには、(1)相手の動きに合わせて付いていき最後までマーク相手に責任をもつか (**マンマーク方式**)、(2)各自は自分付近の場所ゾーンに責任を持ちそのゾーンに相手が入ってきたときに相手をマークするか (**ゾーンディフェンス方式/スペースマーク方式**)、二つのやり方があり、そのそれぞれに長短がある。(1)には①マークが明白で (誰が誰にマークに付くのか明白で) 連携の混乱が生じない、という長所があるが、②相手の動きに合わせて自チームの選手が動くため自チームの陣形が崩れやすい、③各自が相手の動きに合わせて動くためチーム全体としての動きの効率が落ちる<sup>3</sup>という短所がある。(2)の長短は(1)の裏返しですが、④陣形が崩れにくくチームの動きの効率が良いという長所があり、⑤コミュニケーションがしっかりはかれない状況だと誰が誰をマークするのかはっきりせず混乱する、という短所がある。説明が長くなりましたが、10 行上の「いまいまボールが渡る段でも平気でマークを受け渡している」という苦言は、「9 番行ったから頼んだぞ」「了解」というコミュニケーションが成り立たないような、ボールがすぐ来る緊急時においては、マークを受け渡してはいけない、という原則を意味します。ボールが来る瞬間、「そいつ頼んだぞ」と言われても準備ができていないし、ましてや、何も言われず「そいつ行ったのわかるだろう」と勝手に思われても対応できない。要は山東、連携不足/コミュニケーション不足、または、最後まで自分でマークの面倒を見る責任感不足により、東海のパスワークを寸断できていないということ。ただ、相手にボールを持たれることは予想の範囲内だったので、「まあ、そんなもんだろう」と不要の焦りを感じず試合を観ていると、カウンターからそこそこチャンスは作っている。**意図したゲーム運びではないですが、東海のパスワークからボールを奪えず押し込まれるので、東海 DF 裏にスペースができ、逆に山東の方がカウンターからチャンスを作れている。**すると、前半 23 分、前節負傷退場の主将タイチの代わりに出場した **1 年 FW ユウト**が、相手をおかわしたところで倒されペナルティエリア左手前で FK を得る。位置的に右利きの選手が蹴りたい場所。**ボールを追うより女の子を追う方が好きな 2 年チャラミことカツミ**が、それこそちらく、カーブをかけて壁を巻きちょこんと蹴ると、ボールは見事にニアサイドに吸い込まれ、山東先制。今野はベンチで「これ決まるな」と予言していましたが、「カツミなら」という彼のキックへの信頼がありました (3 行上表現へのフォロー)。そして、その直後！ カウンターからカツミが中盤でボールを持つと、寄せてきた相手を引き連れながら左から右へ斜めにドリブル開始。右サイドで膨らんで待機していたユウト？に配球してもよかったのですが、**彼はもっと欲張りだった。**安全に切り返し<sup>4</sup>、左サイドを覗くと、ムンタリ

<sup>3</sup> たとえば、マンマークだと、自分が背負った選手 (自分がマークを引き受けた相手選手=マーク) が右サイドから左サイドに大きく動いたときに、左サイドで誰も背負っていない味方選手がいたとしても、自分がマークを背負い続け動くこととなります。ゾーンだと、「ヨシヒロ (仮名)、9 番そっちいったから頼んだぞ」と一言いえば、誰も動く必要はありません。

<sup>4</sup> この、安全に切り返しする技術、すなわち、相手の足がボールに届かない所でボール方向を変える技術は、とても重要です。中学まではディフェンスが緩いので切り返しを簡単許してくれたでしょうが、高校ではそうはいきません (本当は中学でも切り返しをさせないディフェンスの指導が必要です、そういう指導が行きわたるとオフェンスでも簡単に切り返しをしない良い選手達になります)。**ディフェンスとは、切り返しをさせないようにしつつ一定方向へと寄せるところから始まります。**いわば初歩です。

がフリーの状態。いや、東海もムンタリを警戒していましたが、カツミが右斜め方向へドリブルしたし、そちら方向へ東海の選手も限定していたし、右サイドでボールを受けた選手(とカツミ)が右サイドを突破するかもしれないなかったので、左サイドへプルアウェイ<sup>5</sup>するムンタリに密着マークすることはせず、やや中央方向にポジショニングを修正していた。それ自体は正しい対応……。カツミからナイスパスを受けると、ムンタリは加速し、GKと1対1。それを冷静に決め、追加点を得る。これが前半25分だから、先制点の2分後ということになる。**こういう立て続けの得点/失点が勝敗を分けるのがサッカー**。ワールドカップのドイツ対ブラジルでも証明済み。ともかく、この追加点で楽になった山東。その後も、東海にボールを持たれる時間があっても決定機は許さずいると、今度は**1年左SBシュンが左サイドを突破し、GKとDFの間の絶妙なコースにクロスを上げると、ユウトがファーサイドからのスライディングシュートでネットを揺らし、3点目**。シュンは元々ボールテクニックは悪くないのですが、高校生のレベルでの対人プレーにまだまだ難があり、これまで安定したディフェンスを見せることができませんでした<sup>6</sup>が、徐々にフィットしてきました。この試合は、終始、安定した攻防を見せました<sup>6</sup>。そして、ユウトは前節良い動きを見せていたのでこの節FWで先発させましたが、試合を通して、期待以上の働きをしました。まず、ヘディングが粘り強く、ルーズボールの奪い合いでも貪欲なのが良い。これ、ヘボパスの多い(ビシッと足元にボールが入るだけではない)山東のFWに必要な素養。そして何よりいいのが、**プレーに遊び心がある<sup>7</sup>**。山東に少ないタイプの選手で、こういうプレーヤーが必要と前から思っていました。まだまだ上のレベルで通用する選手ではないのですが、上のレベルに行くためにはこの遊び心が不可欠という関係にある。要は、入部して以来、「この子は上手く育てたら伸びる」と感じさせるものがありました。その有望株が、予想よりも早く実戦で活躍。

その後は、前半のうちにカウンターから縦パスに反応したムンタリとGKが交錯し、PKを得て、4対0で前半を折り返す。後半は、先に述べた「意図したゲーム運びではないですが、東海のパスワークからボールを奪えず押し込まれるので、東海DF裏にスペースができ、逆に山東の方がカウンターからチャンスを作れている」展開がハマりにハマり、**後半は5得点。カツミのCK直接ゴールや、二人をかわすユウトの絶妙なドリブルからのムンタリのワンタッチゴール、ユウトの絶妙ヘッドからのムンタリのシュート**など、印象に残るプレー

---

なぜなら、**ボールに寄せた選手以外の味方選手は、その選手が相手を一定方向に限定することを予想して後方でポジショニングするのですが、簡単に切り返しを許す(すなわち限定方向を守れず限定を破られる)と、後方の選手たちの計算がすべて狂ってしまいます。ボール保持者への寄せで限定を守るとは、連携してディフェンスする際の第一歩なのです**。よって、相手だって切り返しを簡単に許してはくれません。しかし、そこをかいくぐって切り返しをするとチャンスを作れる可能性が高まるわけです。そのためには、様々な手法で、ボールを相手にさらさずに(簡単に触られないようにしつつ)、切り返すことが重要になってきます。

<sup>5</sup> ボールから離れる動きのこと。この動きをされると、相手はマークとボールを同一視しづらい(首を振らないとマークとボールを把握できない)ので、マークを外してしまいがちです。

<sup>6</sup> 同様の観点から、右SBのワタコーも徐々にフィットしてきました。ワタコーはシュンほど巧くなくまだまだ凡ミスはありますが、ダイナミックなプレーが持ち味で、攻守にそのよい点が出始めて来ました。山東は選手層が薄い分、実戦の経験を多く積むことができるという利点がありますね(他の強豪チームであれば、シュン、ワタコー、ユウトなど今まで名前が出てきた1年生は、3年生になるまで/なっても?Aチームで出場することはできないでしょう)。

<sup>7</sup> これが山東の選手に足りないという指摘は、以前のファンタジスタのキワム(キジマの代——タイチの6代上)が引退ミーティングで述べたことだし、はからずも今年カツトが述べたことでもあります。

が多くありました。ボールポゼッション率は前半と比べ大きく落ち、東海の選手の後ろを追う時間が長く東海のパスワークに翻弄されましたが、最終ラインは破られず堪えました。この「攻められるが堪え」というのが山東のカウンターの生きる展開なのでしょう。ただ、**これから東海 A などと当たる機会があれば、堪えることができず、攻め手も与えてもらえないこととなるでしょう。そもそも相手の攻めを許さない厳しいディフェンスが山東にとって必要と改めて感じさせられる試合でした。**

応援ありがとうございました。これから夏場を迎え、1 カ月ほど公式戦から遠ざかります。この1 カ月で身心ともにたくましい選手になって帰ってきます。1 学期の応援ありがとうございました。

**8 月 2 日 (土) 14:00 から、恒例の山東サッカーフェスティバル (OB 戦<sup>8</sup>) が行われます。**3 年生対 2 年生の対決も観ることができるでしょう (16:00 頃か)。興味のある方は、山東の学校のグラウンドにお立ち寄りください。選手諸君へ一言。選手の人数が減ったことが原因として大きかったか、昨年恒例の佐門のモツ煮が大量に余りました。それを OB のオーツキさんが寸胴ごと飲み干す (期待通り飲み干せず、モツ煮を全身浴びる) というイベントへと早変わりしてしまいましたが、**現役生が食べることが重要**です。今年はオーツキさんの出番をなくすように (もし出番があれば、1、2 年生で何とかするように)。

---

<sup>8</sup> 我々の頃は、ナイターサッカーと呼んでいました。**8 月第一土曜日の開催が原則**です。